

英語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日時・学年・学級 令和〇年〇月〇日 (〇) (〇:〇 ~ 〇:〇) 3年〇組 (男子〇名 女子〇名)

2 単元名 ONE WORLD English Course 3 Lesson 5 Athletes and Languages

3 単元について

単元観

本単元は、日本人アスリートと外国語についての題材である。

スポーツは、多くの生徒にとって身近な話題である。先日は、ラグビー・ワールドカップが日本で実施された。また来年は、東京オリンピック・パラリンピックも控えている。スポーツの話題が事欠かない現状の中で、この題材は、生徒自身の考えを具体的に話すことに適するものであるといえる。

また、言語材料として関係代名詞が扱われており、人や物などについて具体的に説明するための表現を学び、表現の幅を広げることに適している。

したがって、本単元では、平成29年度告示の学習指導要領の目標における「話すこと [発表]」のイ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」ことに向けて、生徒自身が注目する人物を、理由などとともに具体的に紹介する力を養う。

4 単元の目標と評価規準 (※能力に関する記述のみとしている)

〔目標〕 〇 自分が注目する人物を、理由などとともに具体的に口頭で紹介する。

→ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標との関連 **話すこと [発表] ①**

〔評価規準〕 〇 自分が注目する人物を、理由などとともに具体的に口頭で紹介することができる。

※ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標【3学年終了時】

外国語表現の能力		外国語理解の能力	
話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
① 聞いたり読んだりしたことについて、内容を確認し合うために問答したり、意見を伝え合ったりすることができる。	① 読んだり聞いたりしたことについて、概要や要点をまとめたり、根拠を明確にしなが意見や賛否を書くことができる。	① 物語や機内アナウンスなど、内容的にまとまりのある話を聞いて、その概要や要点などの必要な情報を聞き取ることができる。	① 意味内容にふさわしく、感情を込めて音読することができる。
② 身近な話題について、具体的に事実を伝えたり、自分の意見や根拠を伝え合ったりすることができる。	② 身近な出来事や体験したことについて、事実や自分の考え、主張などを、読み手に分かりやすい構成で書くことができる。	② 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。	② 物語や説明文など話の内容や書き手の意見に対して、感想や賛否とその根拠を示せるよう(批判的に)読むことができる。
① 様々なテーマについて、その場で考えて、自分の考えや主張などを聞き手に分かりやすく筋道立てて話すことができる。			③ 物語や説明文など、内容的にまとまりのある英文を読み、わからない語などがあっても、あらすじや要点などの概要をとらえることができる。

5 指導と評価の計画

時	ねらい	評価方法
1	○ 本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ・ 最終ゴール（パフォーマンステストの概要）を理解する。 ・ 人や物などを紹介することに役立つ既習表現を復習する。 ・ オリンピックについてイメージを膨らませる。	
2	○ 本文（Part 1）から、人の紹介に活用できる表現を見つけるとともに、その表現に慣れる。	
3	○ 関係代名詞whoを用いて、人を具体的に紹介する。 ・ 将来、なりたい自分を紹介する。	
4	○ 本文（Part 2）から、物などの紹介に活用できる表現を見つけるとともに、その表現に慣れる。	
5	○ 関係代名詞thatを用いて、物を具体的に紹介する。 ・ 動物あてクイズをする。	
6 (本時)	○ 人について、自分の思いなどとともに具体的に紹介するスピーチをする。	
7	○ 本文（Part 3）から、人や物などの紹介に活用できる表現を見つけるとともに、その表現に慣れる。 ・ 人や物などについて、自分の思いなどとともに具体的に紹介するスピーチをする。	
8	○ 関係代名詞whichを用いて、物を具体的に紹介する。 ・ 自分のお気に入りのものを紹介する。	
9	○ 本文（Part 4）から、人や物などの紹介に活用できる表現を見つけるとともに、その表現に慣れる。 ・ 人や物などについて、自分の思いなどとともに具体的に紹介するスピーチをする。	
10	○ 自分が注目している世界で活躍するアスリートや文化人について、自分の思いなどとともに具体的に紹介するスピーチをペアやグループで練習し合い、振り返る。	
後日	○ パフォーマンステスト（スピーキングテスト） ・ 指定されたいくつかのトピック（人・物）から1つを選び、スピーチする。	モノローグテスト

※ 評価については、ここでは指導に生かすための評価（形成的評価）は示しておらず、外国語表現の能力の観点の評定につながる評価（総括的評価）に係るもののみを示している。

6 単元を通しての指導上の工夫点

- ① 毎時間の帯活動で、日常的な話題について自分の考えや意見を理由などとともに具体的に述べたり伝え合ったりする時間を確保する。
- ② 多様な方法で教科書本文の音読を行い、表現力の向上を図る。
- ③ 活動の設定に当たっては、目的・場面・状況を明確にし、自己関連性と真正の教材を意識する。

7 本時の指導過程と評価

(1) 本時のねらい

- 人について、自分の思いなどとともに具体的に紹介するスピーチをする。

(2) 生徒達の「主体的・対話的で深い学び」につながる七つの視点

(※ 学習指導案7(3)に番号【①～⑦】で表示)

① コミュニケーションの目的・場面・状況の明確化	⑤ 豊富なインタラクション
② ペアやグループでの活動の重視	⑥ 自己関連性(Personalization)
③ 英文を読む目的の明確化	⑦ 真正の教材(Authentic Materials)
④ インフォメーションギャップ	

(3) 本時の指導過程と評価

	学習活動	○ 指導上の留意点 ◆ 「努力を要する」状況と判断した生徒への支援	評価規準 (評価方法)
導 入	1. あいさつ 2. 帯活動 (①②④⑤⑥⑦) ① 1 min. speech ペアで、自分になじみのある人を紹介する。 ② 音読練習 (Lesson5 part1,2) ・ Overlapping ・ Read and Look up ・ Sight Translation ・ Shadowing 3. 単元目標と本時のねらいの確認 ① 本時のねらいの確認	○ 人を紹介するときのポイントを確認し、意識させる。 ○ 生徒同士の関わりを増やしたり、練習量を確保したりするために、ペアを変えて数回行う。 ○ 発音や音のつながり、チャンクを意識して読ませる。 ○ 音読の様子を見ながら生徒に声かけをすることで、音読できたことに達成感を持たせる。	
	佐藤真海さんを、世界にPRしよう！		
	② 単元目標の確認	○ 本時の活動が、パフォーマンステスト (単元目標の達成) に向けたものであることを意識づける。	
展 開	4. 活動1 (①②⑦) 佐藤真海さんの紹介スピーチをする。 ① ペア練習 ② 全体でのフィードバック 5. 人を紹介するときのポイントや佐藤真海さんについての情報を確認する。 (①③⑥⑦) ① 本文 (Part1,2) を黙読する。 ② 佐藤真海さんのスピーチを視聴する ③ 佐藤真海さんの追加の資料を読む。 6. 活動2 佐藤真海さんの紹介スピーチ (改) をする。(①②⑥⑦) ① メモの作成 ② ペアで練習 ③ 全体でのフィードバック	○ 活動の場面を意識させる。 ○ メモの内容を個人で考える時間を確保する。 ○ 活動2の支援に向けて、生徒の活動状況を把握しておく。 ○ 表現方法など、困ったことを振り返らせる。 ○ 佐藤真海さんの情報とともに、人を紹介するときに関与表現も確認する。 ○ 情報を伝えるだけでなく、自分の思いを加え表現豊かな、より魅力的なPRとなるよう工夫することを促す。 ○ メモの作成が、原稿の作成とならないようにさせる。 ○ 生徒同士の関わりを増やしたり、練習量を確保したりするために、ペアを変えて行う。 ◆ 活動が進まない生徒に対し、簡単な表現に置き換えて取り組むよう声かけをする。 ○ 各回とも、最後に感想を伝える時間を確保する。 ○ 人を紹介するときのポイントを意識したスピーチとなっているかを考えさせながら発表を聞かせる。	
	ま と め	7. 本時の振り返り ・ 人を紹介するときの表現について学んだことを振り返る。 ・ 本時の疑問点や今後の課題などについても振り返りカードに書く。	○ 単元目標を意識させて振り返らせる。